



「空港整備事業」 令和8年度北海道開発局事業概要

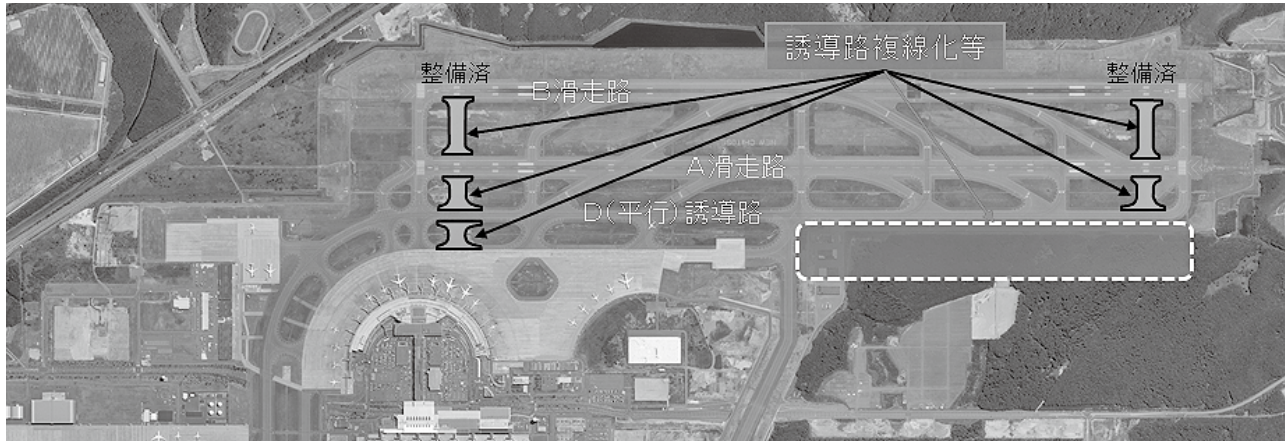
事業実施の基本的な考え方

北海道開発局が実施する空港整備事業は、第9期北海道総合開発計画における「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」及び「生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」を推進するため、新千歳空港及び函館空港において、国内外の旅行者の受入環境整備、空港施設の耐震化など安心・安全な社会基盤の形成に向けた事業を推進します。

1 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

(1) 多様な旅行者の地方部への誘客に向けた安全・安心な受入環境整備

新千歳空港では、除雪作業時でも航空機を優先して走行させるため、除雪車両は航空機が通過するまで滑走路上で待機する必要があることから、除雪作業に多くの時間を要することとなります。また、航空機がトラブルなどによりターミナルへ引き返すような場合、トラブル機が滑走路を走行することによって一時的に滑走路を占有するため、後続の航空機の運用に制約が生じています。こうした状況において発生する航空機の遅延や欠航が冬期間の新千歳空港の課題となっていることから、新たな誘導路を整備し、誘導路の複線化を図るなど、航空機の遅延や欠航の回避・軽減による受入機能の強化により、国内外の多様な旅行者の受入環境の整備を推進します。

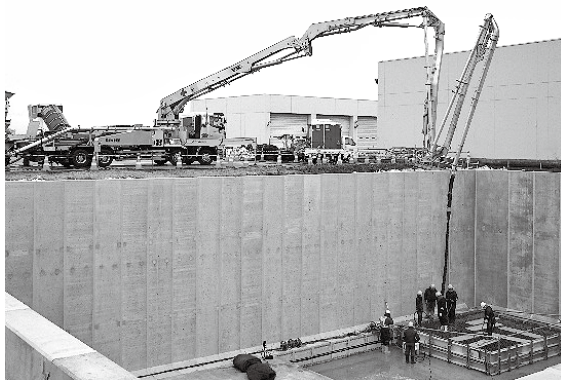


新千歳空港 受入機能強化

2 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

(1) 空港の防災・減災対策

地震災害時において、緊急物資輸送拠点としての機能確保、航空ネットワークの維持を図るため、新千歳空港において滑走路などの耐震対策を推進するとともに、近年の気象変化や長期的な気候変動を踏まえ、台風や豪雨に備えるべく、函館空港において浸水対策を実施します。



函館空港 浸水対策施工状況

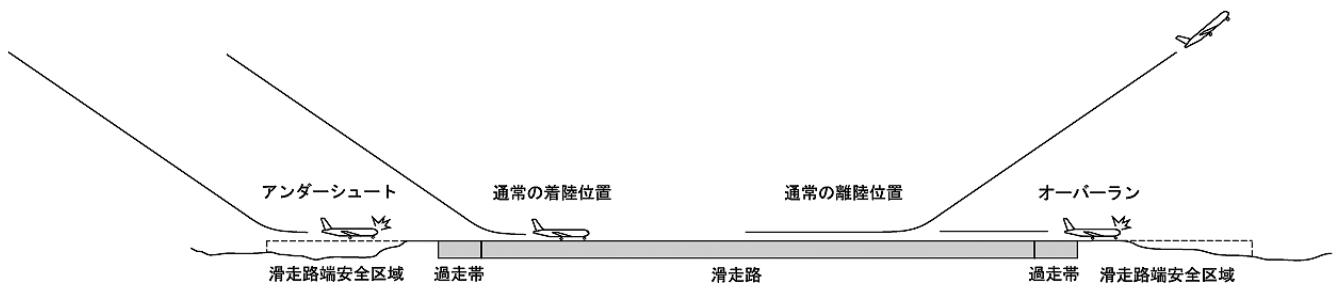
(2) 滑走路端安全区域 (RESA) の整備

航空機が離着陸する際に滑走路を越えて走行し停止する「オーバーラン」、航空機が着陸時に滑走路手前に着地してしまう「アンダーシュート」を起こした場合の航空機の損傷軽減対策として、国際民間航空機関 (ICAO) 勧告を踏まえた改正国内基準に基づき、着陸帯両端に安全確保のために設けることとされている滑走路端安全区域 (RESA) の整備を新千歳空港、函館空港において着実に実施します。

【オーバーラン事故の例】

事故概要

- ・平成25年8月5日 新潟空港着陸時に発生
- ・RESA内で停止したため、人的被害無し



滑走路端安全区域 (RESA) 概念図